

広告

石狩暮らし

市民の“十人十色”な暮らしを、ご紹介します。



- ① スクールバスで仲良く元気に登校。バスは石狩中学校と併用しています。
- ② 須藤先生(写真左)と子どもたちがタマネギを持って吉田さんと記念撮影。
- ③ 10/13(月・祝)、石狩ユネスコ協会主催による「わたしの町のたからもの絵画展」の授賞式を同校で初めて開催します(22ページ参照)。
- ④ 学校田がある生振小学校。写真は昨年の収穫の様子。
- ⑤ 5年生が「わらざうり作り」に挑戦。「生振更生クラブ」の皆さんを講師に迎え、地域の伝統的な文化を学びました。

特認校であり、ユネスコスクールの 生振小学校。

118年の歴史を誇る生振小学校は、昭和59年に市内全域から通学できる「特認校」となって、今年で30年になります。学び舎の周りには畑や田んぼ、防風林などの豊かな自然。そこで子どもたちは伸び伸びと学校生活を謳歌し、ユネスコスクールならではの教育を受けています。

同校が力を入れるのはESD(Education for Sustainable Development)の日常的な実践です。「持続可能な開発のための教育」と訳され世界中のユネスコスクールが実践するもので、子どもたちが地球レベルでものを考え、行動し、解決する力を身に付けるための教育です。それにはまず問題意識を持つことが大切で、身近な環境やエネルギー、伝統文化について考えること、加えて農業が盛んで自然豊かな生振だからこそ

できる教育を目指し、取り組んでいます。

3年生を受け持つ須藤正裕先生(33)は同校に赴任して7年目。ESDを今年さらに進めようと、6月から地域と密着した授業の計画を練ってきました。9月1日(月)、その第一弾として子どもたち7人と訪れたのが、生振でタマネギを生産する「よしだ農場」です。

「収穫期の一番忙しいときに協力していただき、本当にありがたいです」と恐縮する先生に、吉田裕行さん(50)は笑顔で答えます。「地元の小学校は大事にしなくちゃ。子どもたちに畑を見てもらえてうれしいですよ」

30にもおよぶ子どもたちからの質問に丁寧に答え、スイカを用意して待っていた吉田さん。それを頼張り、吉田さんとの会話を楽しむ子どもたち。机上では得られない地域とのきずなを子どもたちは授業の中で育んでいました。

おやふる 生振小学校

明治29年に開校した、市内で唯一の特認校です(年度途中の転入も受け付けています)。児童数は54人。全員がスクールバスで通学しています。

なお、同校は平成22年に道内の小学校で初めて「ユネスコスクール」に認定されています。「ユネスコスクール」は世界中に約9,000校あり、ユネスコ憲章に記された理想を実現するため①地球規模の問題に対する国連システムの理解 ②人権、民主主義の理解と促進 ③異文化理解 ④環境教育 といったことを実践する学校です。

〒生振375-1 ☎64・2018